

第 194 回 学長定例記者会見

日時：令和 8 年 8 月 31 日（月）11：00 ～ 11：30

場所：広島大学 霞キャンパス 臨床管理棟 3 階 大会議室

（広島市南区霞 1-2-3）

※ テレビ会議システムによる配信は行わない

※ YouTube による録画配信を実施

【発表事項】

1. 広島大学の 6 学部が文部科学省から
「国際競争力けん引学部」に認定されました
2. DMAT2 チームと高規格病院救急車を派遣
広島大学病院が要請を受け熊本地震被災地へ
3. 全ての附属学校体育館に空調設備を整備しました
— 熱中症対策と教育環境の向上、災害時の避難所機能を強化 —
4. 放射線影響研究所×広島大学 合同シンポジウムを開催（9/11 開催）
「新たな連携のもと、未来へ」
5. 若手研究者の育成・研究活動を支援
—令和 8（2026）年度 DR11 人、HIRAKU-Global 教員 7 人を決定

【お知らせ事項】

1. 「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（通称 J-PEAKS）」の取り組みに関する報告
2. ショパン音楽大学室内管弦楽団と広島大学の教員・学生が共演
「平和への響き 2026」JAPAN ツアー東広島公演をサタケメモリアルホールで開催（9/27 開催）
3. 今後予定されている主な行事について

■次回の学長定例記者会見（予定）

日時： 令和 8 年 9 月 29 日（火）

場所： 広島大学 東広島キャンパス



令和 8 年 8 月 31 日

広島大学の 6 学部が文部科学省から
「国際競争力けん引学部」に認定されました

広島大学の文学部、教育学部、法学部、経済学部、工学部、情報科学部が本年 8 月 26 日付で文部科学大臣から「国際競争力けん引学部」の指定を受けました。令和 7 年度に認定を受けた総合科学部、理学部、生物生産学部に続く認定となり、本学は 9 学部の国際競争力けん引学部を有することとなりました。

今回の認定により、対象となる 6 学部では、収容定員管理の特例が適用され、優秀な外国人留学生を計画的かつ戦略的に受け入れることが可能となります。これにより、多様な文化的背景を持つ国内外の学生が専門教育の中で共に学び、互いに切磋琢磨し合う環境が一層充実するとともに、世界の大学と互角に競い合える教育と研究の質の向上が期待されます。また、日本人学生にとっても、日常的に多様な価値観や文化的背景に触れながら学ぶ機会が広がり、国際的なコミュニケーション力や、多様な人々と協働して課題を解決する力を育む教育環境のさらなる充実につながります。

広島大学は、今回の指定を本学の国際化をさらに加速させる重要な契機と捉え、世界から優秀な学生が集い、日本人学生と外国人留学生が互いに学び、高め合う教育環境の実現を一層推進してまいります。

【国際競争力けん引学部等認定制度の概要 ※文部科学省 HP より抜粋】

- ・グローバルに獲得競争が激化している優秀な外国人留学生を各大学等がより積極的に受入れられるよう、設置基準等の現在の関係制度との整合に留意しつつ、外国人留学生受入れを含めた国際化のための体制が十分に整備されている大学等の学部等を「国際競争力けん引学部等」として認定し、認定学部等について、収容定員の超過を一定程度認める特例制度
- ・体制が十分に整備されていること等を条件に、優秀な外国人留学生の受入れ割合の拡大を計画する学部等を認定(短大・高専の学科も対象。大学院及び定員抑制分野(医師・歯科医師・薬剤師・獣医師・船舶職員の養成に係るもの)は対象外。)
- ・認定学部等における収容定員充足率の上限を、学部等の規模に応じて、それぞれ 5%引き上げ

【お問い合わせ先】
国際室国際部グローバル化戦略グループ 吉盛・河原林
TEL:082-424-4621/6045

令和 8 年 8 月 3 1 日

DMAT 2 チームと高規格病院救急車を派遣

広島大学病院が要請を受け熊本地震被災地へ

広島大学病院は、厚生労働省 DMAT（災害派遣医療チーム）事務局からの要請を受け、熊本地震の被災地に DMAT2 チームを派遣しました。第一陣は 7 月 30 日から 8 月 1 日まで、第二陣は 8 月 2 日から 5 日まで現地で活動しました。大型電源と 5G 通信設備を備えた「走る集中治療室」ともいえる日本初の高規格救急車を活用し、心電図などをモニターしながらの患者搬送や高い搬送能力を生かしての患者向け飲料水の運搬のほか、被災病院からの情報を集約する活動拠点本部の運営支援、患者ケア、看護師派遣などの支援に取り組みしました。

県内からは 14 病院から DMAT チームが派遣されましたが、2 チームの派遣を要請されたのは広島大学病院のみで、最多となる 13 人の隊員が現地に赴きました。チーム員が現場と本部に分かれて、機動的に活動する局面もありました。さらに、DMAT の本部運営と調整を専門に担う DMAT コーディネーター計 3 人も 8 月 1 ～ 25 日に派遣しました。

■DMAT チームの主な活動

- ・第一陣は医師 2 人、看護師 2 人、薬剤師 1 人、救急救命士 2 人の 7 人。
- ・第二陣は医師 2 人、看護師 2 人、放射線技師 1 人、救急救命士 1 人の 6 人。
- ・熊本県央南活動拠点本部が置かれた済生会熊本病院（熊本市）での本部運営や、被災した病院からの患者搬送、被災病院の患者のケア、患者向けの飲料水運搬などを行いました。

区 分	内 容
患者搬送	高規格病院救急車を活用し、心電図や血圧等をモニタリングしながら受入施設へ搬送。
現地支援	被災病院の支援、患者ケア、入浴支援、不足していた飲料水の搬送などを実施。
本部運営	熊本県央南活動拠点本部において情報整理や関係機関との調整など本部運営を支援。

※ 文部科学省「高度医療人材養成拠点形成事業」の補助金を活用して広島大学病院が導入した高規格病院救急車は、心肺補助装置（ECMO）や人工呼吸器を装着した重症患者を安全に搬送できる装備と、5G 通信を活用した遠隔医療機能を併せ持つ「走る集中治療室」ともいえる車両です。災害時には治療と搬送も担うことが期待されています。



熊本地震被災地から広島大学病院に帰着した高規格病院救急車と DMAT カー
(8月6日)

・ほかに、広島県からの要請で、被災地で地域住民の看護や医療関係者の負担軽減を担う災害支援ナース2人を8月9～12日に、JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）の要請で理学療法士と作業療法士ら計3人を8月7～12日と同16～20日に派遣しました。

DMAT チームと合わせて、これまでに21人の職員が活動しています。

■ 今後の見通し

連日気温 40 度前後の猛暑下での活動で、DMAT 隊員の健康面にも配慮しながらの活動でしたが、体調不良者は出ず、業務をこなしました。大学病院として可能な限り被災地支援に努めてまいります。

【お問い合わせ先】

広島大学病院総務グループ

電話：082-257-5418

メール：byo-toku-chousa@office.hiroshima-u.ac.jp

令和 8 年 8 月 3 1 日

全ての附属学校体育館に空調設備を整備しました**— 熱中症対策と教育環境の向上、災害時の避難所機能を強化 —****【概要】**

広島大学では、附属学校における熱中症対策および教育環境の向上を図るため、2026（令和 8）年 8 月に全ての附属学校体育館に空調設備を整備しました（別紙 1 参照）。総工費は約 3.7 億円です。

近年の厳しい暑さの中、体育の授業や学校行事、部活動などで使用する体育館における暑熱対策は、児童・生徒が安全に学校生活を送る上で重要性を増しています。今回の整備により、気温の高い時期にも体育館をより安全かつ快適に利用できる教育環境を整えます。

また、附属学校の体育館は、災害時には地域住民の避難場所として活用されることも想定されています。空調設備を整備することで、災害時、とりわけ夏季における避難者の健康確保など、地域の防災拠点としての機能向上も期待されます。

【全国の国立大学附属学校における整備状況】

文部科学省の調査によると、2026（令和 8）年 5 月 1 日現在、国立大学附属学校の体育館等における空調設備の設置率は、小中学校 32.8%、高等学校 26.0%となっています。

本学における全ての附属学校体育館への空調設備整備は、児童・生徒の安全・健康に配慮するとともに、教育環境のさらなる向上につながるものです。

【参考】

学校種	体育館等保有室数	空調設置済室数	設置率
小中学校	232	76	32.8%
（うち小学校）	84	26	31.0%
（うち中学校）	148	50	33.8%
高等学校	50	13	26.0%

出典：文部科学省「国立大学法人の附属学校における空調（冷房）設備設置状況調査結果（全国）」（2026 年 5 月 1 日現在）

【三原小・中学校では体育館の床も改修】

三原小・中学校の体育館では、空調設備の整備とあわせて床改修を実施し、安全性・快適性の両面から教育環境を向上させました。

床には、国際的なスポーツ大会でも使用されているスポーツ床材「タラフレックス」を採用。木製フローリングのささくれによるけがや、冬季の底冷えの低減が期待されます。

広島大学では、今回整備した空調設備を活用することで、附属学校の児童・生徒の安全を確保し、安心して学び、活動できる教育環境の充実を図るとともに、災害時における地域住民の避難環境の向上にも貢献してまいります。

【お問い合わせ先】

財務・総務室
施設部施設整備グループ 岩崎
TEL:082-424-6116

教育室
附属学校支援グループ 森根
TEL:082-424-6961

広島大学附属学校体育館 空調設備整備状況確認表

学校名	体育館面積(m ²)	空調設備設置台数(台)	空調能力(kW等)	整備時期
附属小学校	483	室外機2台 室内機8台	112kW	令和4年度に整備
附属中・高等学校	アリーナ:1140 武道場:206	室外機4台 室内機34台	292.4kW	今回整備
附属東雲小学校	570	室外機2台 室内機14台	99.4kW	今回整備
附属東雲中学校	558	室外機2台 室内機13台	92.3kW	今回整備
附属三原小学校	543	室外機2台 室内機8台	112kW	今回整備
附属三原中学校	543	室外機2台 室内機8台	112kW	今回整備
附属福山中・高等学校	アリーナ:1120 第一格技場:184 第二格技場:223 ダンスレッスン室:59 保健教室:85	室外機6台 室内機34台	375.2kW (ダンスレッスン室および保健教室は除く)	今回整備



令和 8 年 8 月 31 日

放射線影響研究所×広島大学 合同シンポジウムを開催（9/11）
「新たな連携のもと、未来へ」

このたび、放射線影響研究所の霞キャンパス移転を記念し、広島大学と放射線影響研究所は、下記のとおり合同シンポジウムを開催します。ゲノム、疫学・データベース・AI、バイオバンクの 3 テーマについて両機関の研究者が講演し、共同研究や人材交流を通じた連携強化につなげます。

ぜひ取材にお越しください。

■シンポジウム開催概要

日時：2026 年 9 月 11 日（金）13:30～16:30

会場：広島大学 霞キャンパス 凌雲棟 R501（広島市南区霞 1-2-3）

対象：広島大学及び放射線影響研究所の関係者

主催：広島大学、放射線影響研究所

定員：400 人

言語：日本語および英語

プログラム（予定）

13:30-13:35 開会・挨拶 越智 光夫 広島大学 学長

13:35-14:35 テーマ 1 ゲノム

山本 卓 広島大学 ゲノム編集イノベーションセンター長

吉田 健吾 放射線影響研究所 分子生物科学部 副部長

14:45-15:45 テーマ 2 疫学・データベース・AI

近添 淳一 広島大学 脳・こころ・感性科学研究センター長

Alina V. Brenner 放射線影響研究所 疫学部 主任研究員

15:55-16:25 テーマ 3 バイオバンク

藤本 淳也 広島大学病院広島臨床研究開発支援センター

教授

田邊 修 放射線影響研究所 バイオサンプル研究センター

センター長

16:25-16:30 閉会・挨拶 神谷 研二 放射線影響研究所 理事長

【お問い合わせ先】

広島大学霞地区運営支援部総務グループ（大学院担当）

E-mail：kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp

TEL：082-257-1611（内線：霞 6532）

放射線影響研究所 × 広島大学 Joint Symposium

合同シンポジウム

新たな連携のもと、未来へ

放射線影響研究所
霞キャンパス
移転記念



Genome

ゲノム

ゲノム研究の深化と
新たな知の創出



Epidemiology
Data / AI

疫学・データベース・AI

データとAIの力で
人々の健康を未来へつなぐ



Biobank

バイオバンク

貴重な生体試料を未来の
研究と医療に活かす



Collaboration

共同研究・連携強化

異分野融合と人材交流による
新たな価値の創造

開催日時

2026.

9.11 金

13:30 - 18:30

開催場所

広島大学 霞キャンパス
凌雲棟R501 (広島市南区霞1-2-3)

対象者

広島大学及び放射線影響研究所の関係者



情報交換会

17:00 - 18:30

広島大学 霞キャンパス 凌雲棟1階スペース

会費：5000円 (予定)

PROGRAM (予定)

13:30-13:35 開会・挨拶 広島大学 越智 光夫 学長
司会・広島大学講師紹介：広島大学 医系科学研究科長 岡村 仁
放射線影響研究所講師紹介：放射線影響研究所 副理事長 Preetha Rajaraman

テーマ①
ゲノム

13:35-14:35
(各30分)

山本 卓 Takashi Yamamoto
広島大学 ゲノム編集イノベーションセンター長
吉田 健吾 Kengo Yoshida
放射線影響研究所 分子生物科学部 副部長

14:35-14:45 休憩

テーマ②
疫学・
データベース・
AI

14:45-15:45
(各30分)

近添 淳一 Junichi Chikazoe
広島大学 脳・こころ・感性科学研究センター長
Alina V. Brenner
放射線影響研究所 疫学部 主任研究員

15:45-15:55 休憩

テーマ③
バイオバンク

15:55-16:25
(各15分)

藤本 淳也 Junya Fujimoto
広島大学病院広島臨床研究開発支援センター 教授
田邊 修 Osamu Tanabe
放射線影響研究所 バイオサンプル研究センター センター長

16:25-16:30 閉会・挨拶 放射線影響研究所 神谷 研二 理事長



シンポジウム・
情報交換会のお
申し込みは
こちらから

<https://forms.cloud.microsoft/r/1TEG7yTEu8>

主催 | 広島大学、放射線影響研究所

【問い合わせ先】

広島大学霞地区運営支援部総務グループ (大学院担当)
E-mail : kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp
TEL : 082-257-1611 (内線：霞6532)

Radiation Effects
Research Foundation



Hiroshima University

Joint Symposium

New Connections, New Future

Commemorating
the Relocation of
RERF to Kasumi
Campus, HU



Genome

Advancing genomic
research and
new discoveries



Epidemiology Data / AI

Using data and AI
to connect people's health
and the future



Biobank

Biobanking for
innovative research and
medical applications



Collaboration

Interdisciplinary
collaboration for
creating new value

DATE&TIME

2026.
9.11 Fri.
13:30 - 18:30

VENUE

Ryoun Building 5F R501
Kasumi Campus
Hiroshima University
(1-2-3 Kasumi, Minami-ku, Hiroshima-shi,
Hiroshima, Japan)

TARGET

Faculty, researchers, and staff of Hiroshima
University and Radiation Effects Research
Foundation



NETWORKING RECEPTION
17:00 - 18:30

Ryoun Building 1F Space
Kasumi Campus, Hiroshima University
Participation Fee: 5,000 JPY (tentative)

PROGRAM (tentative)

13:30-13:35 **Opening Remarks Mitsuo Ochi, President, Hiroshima University**
MC / Introduction of HU Speakers: Hitoshi Okamura, Dean,
Graduate School of Biomedical and Health Sciences, HU
Introduction of RERF Speakers: Preetha Rajaraman, Vice Chair, RERF

Theme① Genome

13:35-14:35
(30 min. each)

Takashi Yamamoto

Hiroshima University, Genome Editing Innovation Center, Director
Kengo Yoshida
Radiation Effects Research Foundation,
Department of Molecular Biosciences, Assistant Department Chief

14:35-14:45 Break

Theme② Epidemiology Data / AI

14:45-15:45
(30 min. each)

Junichi Chikazoe

Hiroshima University, center for Brain,
Mind and Kansei Sciences research, Director

Alina V. Brenner

Radiation Effects Research Foundation, Department of Epidemiology,
Senior Scientist

15:45-15:55 Break

Theme③ Biobank

15:55-16:25
(15 min. each)

Junya Fujimoto

Hiroshima University Hospital, Clinical Research Center in Hiroshima
Professor

Osamu Tanabe

Radiation Effects Research Foundation, Biosample Research Center,
Director

16:25-16:30 **Closing Remarks Kenji Kamiya, Chair, Radiation Effects Research Foundation**



<https://forms.cloud.microsoft/r/1TEG7yTEu8>

Register for the
Symposium &
Networking
Reception Here

| **Organizers** |
Hiroshima University
Radiation Effects Research Foundation (RERF)

【Contact】
General Affairs Group (Graduate School Affairs),
Hiroshima University
E-mail : kasumi-soumu@office.hiroshima-u.ac.jp
TEL : +81-82-257-1611



令和 8 年 8 月 31 日

**若手研究者の育成・研究活動を支援
令和 8（2026）年度 DR11 人、HIRAKU-Global 教員 7 人を決定**

広島大学では、研究力の強化に向けて、将来を担う若手研究者の育成と研究活動の支援に取り組んでいます。

このたび、令和 8（2026）年度の「特に優れた研究を行う若手教員（DR：Distinguished Researcher）」として 11 人を認定するとともに、「HIRAKU-Global」プログラムの第 7 期生となる教員 7 人を採択しました。

■令和 8 年度 DR 11 人を認定

「DR（Distinguished Researcher）」は、特に優れた研究を行う若手教員を認定し、重点的に研究支援を行う制度です。

研究業績、外部資金の獲得状況、学術賞の受賞歴など、分野の特性に応じた多面的な指標により選考しています。認定期間は原則 3 年間です。

認定者は、1 人あたり年間 30 万円の研究費の支援に加え、J-PEAKS 事業の一環として実施する「広島大学若手教員海外派遣プログラム」において、海外派遣に係る旅費（上限 200 万円）および所属部局への環境整備費（上限 100 万円）の支援を優先的に受けることができます。

DR 制度は平成 24（2012）年度に創設され、今回の 11 人を含め、これまでに 53 人を認定しています。

令和 8 年度認定 DR：11 人

大学院人間社会科学研究科 1 人
大学院先進理工系科学研究科 5 人
大学院統合生命科学研究科 1 人
大学院医系科学研究科（医） 2 人
病院 1 人
原爆放射線医科学研究所 1 人
※認定者一覧は別紙 1 参照

■HIRAKU-Global 第 7 期生 7 人を採択

「HIRAKU-Global」は、世界で活躍できる研究者の育成を目指すプログラムです。広島大学を代表機関として、山口大学、徳島大学、愛媛大学と連携し、中国・四国地区の強みを生かした研究者育成に取り組んでいます。

このたび、第 7 期生となる「HIRAKU-Global Researcher」7 人を採択しました。広島大学 4 人、山口大学、徳島大学、愛媛大学から各 1 人が参加します。採択者は、スタートアップ研究費（2 年間で最大計 200 万円）と海外への中長

期派遣（3年間で最大計200万円）の支援に加え、メンターによる助言、キャリア形成や能力開発に関するイベント・セミナーへの参加などを通じて、研究力や研究マネジメント力を高め、世界で活躍できる研究者を目指します。
これまでに39人を育成教員として採択しています。

第7期 HIRAKU-Global Researcher：7人

広島大学 4人

山口大学 1人

徳島大学 1人

愛媛大学 1人

※採択者一覧は別紙2参照

■若手研究者のさらなる飛躍を支援

広島大学では、優れた研究に挑戦する若手研究者を発掘・支援するとともに、将来、世界を舞台に活躍する研究者の育成に取り組んでいます。
今後も、若手研究者が自由な発想のもとで研究に挑戦し、その成果を国内外に発信できる環境の充実に図り、本学の研究力のさらなる向上につなげていきます。

（参考）

HIRAKU-Global サイト：<https://www.hiroshima-u.ac.jp/hiraku-g>

世界で活躍できる研究者育成プログラム総合支援事業のサイト：

<https://www.researcherplus.mext.go.jp/>.

【お問い合わせ先】

（DRについて）

学術社会連携室 未来共創科学研究本部 研究戦略部

研究戦略推進部門 村上 尚子

TEL:082-424-9100

（HIRAKU-Global Researcherについて）

学術・社会連携室 学術・社会連携支援部

研究推進グループ 天野祐子

TEL:082-424-7408

別紙1

NO IMAGE

配属先

大学院人間社会科学研究科

学位

東京大学 修士（文学）
リヨン第2大学 博士（古代世界
言語・歴史文明学）

専門

人文学 / 考古学

研究者総覧

研究者総覧のページは[こちら](#)研究
キーワード古代国家形成 / 鉄の文明史 / 西
アジア / 鉄器時代 / 文化遺産

専門は中近東の考古学で、人類史における国家形成プロセスの理論・実証研究を行っている。近年は、鉄の技術革新の起源と伴う社会変革の解明に取り組んでいる。JST創発的研究支援事業に採択され、中東やコーカサスを対象に学際的な研究を推進し、質の高い論文（Q1ジャーナルへの掲載）を執筆している。また、文化遺産の保全や遺産化に係るプロジェクトや国際会議を協働・主導して、地域社会の課題解決にも積極的に取り組んでいる。



配属先

大学院先進理工系科学研究科

学位

慶應義塾大学 修士（工学）
慶應義塾大学 博士（工学）

専門

複合領域 / 脳科学 / 脳計測科学
複合領域 / 健康・スポーツ科学 / 身体教育学

研究者総覧

研究者総覧のページは[こちら](#)研究
キーワードニューロテクノロジー / ブレイン
テック / 脳波 / 非侵襲脳刺激
運動制御 / 運動学習 / システム
ティックレビュー / メタアナリシス

ヒトの運動機能を対象に、脳刺激・脳計測・AIを組み合わせたニューロテクノロジー研究を行っている。JSTさきがけやムーンショット型研究開発事業など、これまでに約4.7億円の外部資金を獲得し、直近3年間で17報の英文論文を発表している。大学発スタートアップの創業に加え、「ブレイン・テックガイドブック / エビデンスブック」がOECDの Neurotechnology Toolkit で紹介されるなど、研究成果を社会実装や国際的な政策議論へ展開している。

DR 岡崎 啓史 OKAZAKI KEISHI 准教授



配属先 大学院先進理工系科学研究科

学位 広島大学 修士（理学）
広島大学 博士（理学）

専門 数物系科学 / 地球惑星科学 / 固体地球
惑星物理学・地質学・岩石-鉱物-鉱床学

研究者総覧 研究者総覧のページは[こちら](#)

**研究
キーワード** プレートテクトニクス/沈み込み
帯/地震/海洋プレート/海洋地殻
/マントル/変成岩/レオロジー/
破壊/高温高压実験

地球を含む天体内部の様々な環境（低温/高温、低圧/高圧、低速/高速）で起こっている様々な変形や流体移動を実験室で再現するために様々な高温高压岩石変形透水試験機を作ったり改良しながら研究をおこなっている。JST創発的研究支援事業、科学研究費助成事業 基盤研究(A)2回、NEDOフロンティア育成事業などの外部資金を獲得。特に近年は、地震-非地震境界の岩石の破壊・摩擦・流動特性、天体の“新陳代謝”を支配する天体深部岩石流動特性、水素増進生成回収に関連した反応・変形・流体移動などに興味を持ち研究をおこなっている。

DR 村松 悟 MURAMATSU SATORU 准教授



配属先 大学院先進理工系科学研究科

学位 東京大学 修士（理学）
東京大学 博士（理学）

専門 化学 / 基礎化学 / 物理化学

研究者総覧 研究者総覧のページは[こちら](#)

**研究
キーワード** レーザー分光 / 光化学 /
気相分光 / 極低温分光 /
クラスター科学 / 典型元素化学

化学というとフラスコの中をイメージしがちですが、実はそこには不純物・溶媒・大気の大熱などの大量の“邪魔者”が潜んでいます。私はそこからターゲット分子だけが孤立した究極にクリーンな環境下でのレーザー分光研究を推進しています。JST創発的研究支援事業（2024年度）などの支援を受けながら、この技術にさらなる磨きを掛け、理論的に予測された化学結合状態の解明や、隠れていた分子機能の開拓に挑戦しています。

DR 樽谷 直紀 TARUTANI NAOKI 准教授



配属先 大学院先進理工系科学研究科

学位 大阪府立大学 修士（工学）
大阪府立大学 博士（工学）

専門 化学 / 材料化学 / 無機工業材料
工学 / 材料工学 / 複合材料・表界面工学
総合理工 / ナノ・マイクロ科学 / ナノ材料化学
工学 / 材料工学 / 無機材料・物性

研究者総覧 研究者総覧のページは[こちら](#)

**研究
キーワード**

ゾル-ゲル化学 / コロイド化学 /
ハイブリッド材料 / ナノ材料 /
多孔質材料

無機材料化学・ナノ材料化学が専門であり、ナノ粒子の自己組織化や微細構造制御を通じて、触媒や環境材料の開発に取り組んでいる。これまでに、JST創発的研究支援事業をはじめとして1.4億円を超える研究費を代表者として獲得しており、原著論文53報の実績がある。文部科学省の卓越研究員や世界で活躍できる研究者戦略育成事業HIRAKU-Global選抜教員にも選抜されるなど、高い評価を受けている。

DR 齋藤 光代 SAITO MITSUYO 准教授



配属先 大学院先進理工系科学研究科

学位 広島大学 修士（学術）
広島大学 博士（学術）

専門 環境学 / 環境創成学 / 自然共生システム

研究者総覧 研究者総覧のページは[こちら](#)

**研究
キーワード**

環境/地質/地下水/沿岸域/人間
活動/気候変動/ブルーカーボン

陸域からの水・物質輸送が沿岸環境に及ぼす影響についての幅広い研究に取り組み、近年は「海底湧水が藻場（ブルーカーボン）生態系に及ぼす影響」や「人間活動・気候変動が沿岸域の物質循環に及ぼす影響」に関するプロジェクトを主導している。これまで代表者として8,300万円（分担を含む総額は1億円以上）の競争的資金を獲得し、ブラジル、インドネシア、中国をはじめとする国際共同研究実績も豊富で、成果としてSCI論文54編を発表している。



配属先

大学院統合生命科学研究科

学位

東京大学 修士（農学）
東京大学 博士（農学）

専門

農学 / 農芸化学 / 応用微生物学
生物学 / 生物科学 / 分子生物学

研究者総覧

研究者総覧のページは[こちら](#)研究
キーワード

大腸菌 / 一細胞解析 / 定量生物学 / 細胞死

大腸菌をモデル微生物として、顕微鏡を用いた一細胞観察と定量解析を組み合わせることで、生命現象の新たな原理の解明に取り組んでいる。JST創発的研究支援事業では、大腸菌の細胞死機構を解明し、細胞死の予測と制御を目指す研究を推進している。また、GteX、CREST、学術変革領域研究（B）などの研究プロジェクトにも参画し、単一細胞解析を基盤とした生命科学研究を展開している。



配属先

大学院医系科学研究科（医）

学位

広島大学 博士（医学）

専門

医歯薬学/内科系臨床医学/消化器内科学

研究者総覧

研究者総覧のページは[こちら](#)研究
キーワード

肝癌／ウイルス性肝炎

専門は肝臓病学・消化器病学。肝細胞癌および慢性肝疾患を対象に、免疫微小環境、ゲノム解析、空間オミクスを融合したトランスレーショナルリサーチを推進している。免疫療法の新規バイオマーカーや発癌リスク評価に関する研究成果を国際誌で発信するとともに、AMEDや科研費など代表課題として約1億円の外部研究資金を獲得し、基礎研究の成果を臨床へ還元する研究を展開している。



配属先 大学院医系科学研究科（医）

学位 広島大学 修士（理学）
広島大学 博士（理学）

専門 医歯薬学 / 社会医学 / 疫学・予防医学

研究者総覧 研究者総覧のページは[こちら](#)

**研究
キーワード** 数理疫学 / 医学統計学 / 衛生学・公衆衛生学

生物統計学、疫学を専門とし、大規模医療データと統計科学・数理モデルを活用した臨床・公衆衛生研究を行っている。献血・血液製剤の需給予測や疾病負担推計・将来予測モデルの開発を通じて、医療政策・公衆衛生施策に資する科学的根拠を創出している。これまでに166編の査読付き論文を発表し、科研費・厚生労働科学研究費の研究代表として2,000万円を超える競争的研究費を獲得している。



配属先 病院危機医療センター

学位 慶應義塾大学 修士（医学）
名古屋大学 博士（医学）

専門 救急集中治療

研究者総覧 研究者総覧のページは[こちら](#)

**研究
キーワード** Precision Critical Care / 蘇生医学/ECMO/急性呼吸窮迫症候群/心肺停止

救急集中治療医学を専門とし、ECMOを要する重症呼吸・循環不全患者を対象とした多施設共同研究やAIを活用した医療研究に取り組んでいる。世界最大規模のECMO画像データベース「J-CARVE registry」や、13カ国が参加する国際共同研究「EXTEND ARDS study」を主導し、筆頭・責任著者として50報以上の国際論文を発表している。AMEDや科研費基盤研究（B）などの大型研究費を獲得し、AIによる個別化治療支援システムの開発を通じて、重症患者診療の高度化を目指している。



配属先

原爆放射線医科学研究所

学位

広島大学 博士（医学）

専門

医歯薬学 / 内科系臨床医学 / 小児科学

研究者総覧

研究者総覧のページは[こちら](#)

**研究
キーワード**

先天性免疫異常症 / 宿主遺伝子異常 / 単一遺伝子疾患 / 放射線影響研究 / 中和抗体 / サイトカイン中和抗体による免疫異常症類似疾患

小児科学、先天性免疫異常症が専門。「希少疾患から普遍的な医療へ」を研究理念に、先天性免疫異常症の研究を基盤として、難治性疾患の病態解明と精密医療の実現を目指している。さらにDNA修復異常症を通じた放射線感受性研究にも取り組み、希少疾患研究を放射線影響研究へ展開している。これまでにAMED難治性疾患実用化事業などで研究代表者を務め、総額約7,000万円の競争的研究費を獲得している。国際共同研究を通じて、希少疾患研究から普遍的な医学・医療の創出を目指すトランスレーショナルリサーチを推進している。

2026 年度 第 7 期 HIRAKU-Global 教員 採択者一覧

※顔写真下部に
氏名、所属、研究分野を掲載。

広島大学（4名）



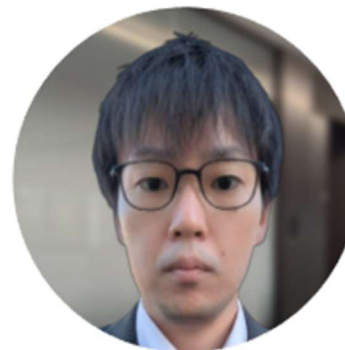
秋澤 紀克

大学院先進理工系科学研究科
（地球科学）



池端 路子

大学院人間社会科学研究科
（中東地域研究、イスラーム世界論、
宗教の国際政治学）



松島 慶

大学院先進理工系科学研究科
（計算科学）



西條 春信

大学院人間社会科学研究科
（政治学）

山口大学（1名）



Wu Jing

大学院創成科学研究科
（黄砂、ダスト発生、
乾燥地リモートセンシング）

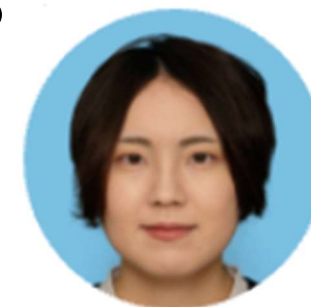
愛媛大学（1名）



Zhang Youyue

先端研究院地球深部ダイナミクス研究センター
（地球物理、惑星科学高圧物質科学）

徳島大学（1名）



高田 春風

大学院医歯薬学研究部
（薬物動態学、生物薬剤学）



令和 8 年 8 月 31 日

「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業
(J-PEAKS)」の取組に関する報告

日本全体の研究力を牽引する地域中核拠点として、令和 5 年度、広島大学は「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択されました。

本学は、半導体・超物質、再生・細胞医療・創薬の融合研究領域を中心に、世界的に稀少な紫外線(UV)領域の放射光による可視化を基盤として、研究力向上戦略を推進します。また、「人・知・資源の好循環」のハブとして異分野融合エコシステムを形成し、国際頭脳循環・産業集積を促進します。

地域中核拠点の形成に向けた本学のさまざまな取組みについて、最新情報をお知らせします。

J-PEAKSのもと、研究力強化に向けた取組を推進

— 研究拠点の形成、若手研究者育成、国際展開を一体的に強化 —

広島大学では、J-PEAKSのもと、新たな研究拠点の形成、次世代研究者の育成、国際共同研究の推進を通じた研究力強化に取り組んでいます。

このたび、「新インキュベーション研究拠点」の採択プロジェクトおよび「フェニックス特別研究員 NEXT」の令和 8 年度採用者を決定しました。また、若手教員の海外での研究活動を支援する「令和 8 年度広島大学若手教員海外派遣プログラム」の学内公募を開始しました。

(1) 新インキュベーション研究拠点の採択プロジェクトを決定

異分野融合研究や研究成果の社会実装を推進する「新インキュベーション研究拠点」の学内公募を実施し、4 件のプロジェクトを採択しました。

本制度では、卓越した研究力を基盤として、イノベーションの創出や地域課題の解決につながる活動を行う研究チームを支援します。採択拠点には、1 拠点当たり年間 500 万円程度を 3 年間支援し、本学の新たな重点研究拠点への発展を後押しします。

採択プロジェクト（拠点長）：

- ・進化と AI の融合で医療の革新を目指す拠点（久門 智祐 准教授）
- ・社会実装アクセラレーション研究拠点（角谷 快彦 教授）
- ・レジリエントな流域圏資源循環研究拠点（齋藤 光代 准教授）
- ・広島大学細胞・再生医療フロンティア融合拠点（大平 真裕 准教授）

【新インキュベーション研究拠点の HP】

<https://www...>

(2) フェニックス特別研究員 NEXT の令和 8 年度採用者を決定

国内外の優れた若手研究者を受け入れる「フェニックス特別研究員 NEXT」の令和8年度採用者を決定しました。

本制度は、採用者と学内の受入教員との共同研究を通じて、本学の研究力強化、国際的な研究ネットワークの拡充および将来的な国際共同研究の発展を図ることを目的としています。

研究計画、研究実績、国際性、将来性などを総合的に審査した結果、人文社会科学、先進理工系、生命科学系、医科学系の各研究領域から1名ずつ、計4名の採用者を決定しました。

採用者は最長3年間雇用し、給与および赴任旅費に加え、年間100万円の研究費を支給します。受入教員との先進的な共同研究を支援することで、本学の研究力のさらなる向上と国際共同研究の一層の発展を目指します。

(3) 若手教員海外派遣プログラムの学内公募を開始

優秀な若手教員を対象とした「令和8年度広島大学若手教員海外派遣プログラム（HU Global-TOBU! Program for early career researchers）」の学内公募を開始しました（応募締切：令和8（2026）年10月2日（金））。

本プログラムでは、2か月以上の海外派遣を対象にして、若手教員を海外の研究機関へ派遣し、国際共同研究の推進や国際的な研究ネットワークの構築を支援します。採択予定件数は15件です。

採択者には、渡航費として上限200万円を支援するほか、渡航期間中の学生指導等を補完するための環境整備費として上限100万円を支給します。

本プログラムを通じて、若手研究者の研究力向上を図るとともに、本学の研究活動の国際展開を一層推進します。

今後に向けて

広島大学は、研究拠点の形成、国内外からの若手研究者の獲得・育成、学内研究者の海外派遣を一体的に進めています。

これらの取組を通じて、異分野や国境を越えた研究交流を促進し、J-PEAKSが目指す「人・知・資源の好循環」のハブとなる異分野融合エコシステムの形成を推進していきます。

【図：今回の取組の概要】

取組の柱	実施内容	目指す方向性
01  研究拠点の形成	新インキュベーション 研究拠点の採択プロジェクトを決定 異分野融合研究や社会実装につながる 新たな研究拠点を形成し、本学の重点研究拠点へ 発展させます。	 ✔ 異分野融合研究の創出と社会実装 ✔ 新たな重点研究拠点の形成
02  若手研究者の 育成・獲得	フェニックス特別研究員NEXTの 令和8年度採用者を決定 国内外の優れた若手研究者を受け入れ、学内研究者 との共同研究を通じて、国際的な頭脳循環と 新たな研究領域の開拓を進めます。	 ✔ 国内外の優れた若手研究者の受入れ ✔ 国際的な頭脳循環の促進
03  研究活動の 国際展開	若手教員海外派遣プログラムの 公募を開始 若手教員の海外研究機関への派遣を支援し、 国際共同研究や海外研究ネットワークの構築を 促進します。	 ✔ 国際共同研究の推進 ✔ 海外研究ネットワークの構築

地域中核・特色ある研究大学強化促進事業（J-PEAKS）とは？

地域の中核大学や研究の特定分野に強みを持つ大学が、その強みや特色のある研究力を核とした戦略的経営のもと、他大学との連携等を図りつつ、研究活動の国際展開や社会実装の加速等により研究力を強化することで、我が国全体の研究力の発展を牽引する研究大学群の形成を推進することを目的とした事業。Program for Forming Japan's Peak Research Universities の通称。



広島大学は 2023 年度に採択され、2028 年度までの 6 年間で総額 55 億円の財政支援が予定されています（体系的番号：JPJS00420230011）。

【お問い合わせ先】

学術・社会連携室
未来共創科学研究本部
研究戦略部 研究戦略推進部門 宮良
TEL: 070-6645-2583
Mail: ura@office.hiroshima-u.ac.jp



令和 8 年 8 月 31 日

ショパン音楽大学室内管弦楽団と
広島大学の教員・学生が共演
「平和への響き 2026」JAPAN ツアー東広島公演を
サタケメモリアルホールで開催（9/27 開催）

フレデリック・ショパン音楽大学を拠点とするショパン音楽大学室内管弦楽団による日本公演ツアーの一環として、広島大学サタケメモリアルホールにおいて東広島公演を開催することになりました。

本公演は、広島大学大学院人間社会科学研究科との共催により、平和教育・共生推進に向けた音楽・教育交流の機会として実施する予定です。ショパン音楽大学室内管弦楽団による演奏には、本研究科音楽文化教育学領域の教員・学生が独唱、合唱、オーケストラで共演いたします。また、オーケストラの公開リハーサル、広島大学との共同講演会、ピアノ公開レッスン等を組み合わせることで、音楽を通じてポーランドの文化、表現、教育に触れられる一日になるのではないかと考えています。すべてのイベントで入場無料（要予約）です。

ポーランドを代表する高等音楽教育機関であるショパン音楽大学から、若い演奏家たちが東広島を訪れます。大学のまち・学術のまちである東広島において、広島大学の教員、大学院生、学生をはじめ、市民、児童生徒、音楽関係者がともに参加できる形を整えることで、公演を単なる鑑賞の場にとどめず、学びと対話、国際理解の機会へと広げていけることを願っています。

日時：2026 年 9 月 27 日（日）15:30～18:00

場所：広島大学サタケメモリアルホール

プログラム：

- ・ショパン作曲 ピアノ協奏曲 第 1 番
- ・ベートーヴェン作曲 交響曲 第 3 番《英雄》
- ・柴田南雄作曲 オペラ《忘れられた少年―天正遣欧少年使節》

当日関連イベント：

9:00～12:00 公開リハーサル

9:30～12:30 ピアノ公開レッスン（教育学部音楽棟演奏室（F101）にて）

13:00～14:30 講演会 テーマ：音楽教育と平和の未来

15:30～18:00 演奏会

入場料：無料

対象：小学生以上入場可（未就学児は入場不可）
定員：1000 人（全席指定）
予約：右記の二次元コードよりお申し込みください。
ウェブサイト：<https://chopin-japan2026.jp/>



後援：外務省、文部科学省、ポーランド共和国科学高等教育省、駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター、在日ポーランド商工会議所、東広島市、東広島教育委員会ほか

【お問い合わせ先】

人間社会科学研究科 音楽文化教育学領域事務室
TEL:082-424-6834（出本）平日 9:30～16:00

「平和への響き2026」JAPANツアー

東広島公演 ショパン音楽大学室内管弦楽団



できていく音楽に、立ち会う。

— 当日午前、リハーサルを公開します。

ピアノ

クシシュトフ・ヴィエルチニスキ

指揮

ラファウ・ヤニアク

音楽が生まれる時間へ。

すべて無料でご招待します

・どなたでもお申し込みいただけます(要事前予約・先着順)

・小学生以上入場可(未就学児は入場不可)・お一人につき1予約1席

▼ お申し込みは、最下部の二次元コードから

同日開催

詳しくは裏面へ▶

9:00~

公開リハーサル

9:30~

ピアノ公開レッスン

13:00~

講演会

15:30~

本公演

※各プログラムの時間・会場は変更となる場合があります。最新情報は公式サイトでご確認ください。

2026年 **9月27日(日)**

開場 15:00 開演 15:30

広島大学サタケメモリアルホール

本公演プログラム

ショパン ピアノ協奏曲第1番

ベートーヴェン 交響曲第3番《英雄》

オペラ《忘れられた少年—天正遣欧少年使節》

特別共演 東京オペラ協会

ポーランドの舞台に立った、日本のオペラ。
今度は、ポーランドの楽団が同じ舞台へ。



ポーランドと日本 — 戦争を記憶するふたつの国が、おなじ音楽を奏でる。



◀ お申込み・最新情報はこちら

chopin-japan2026.jp

二次元コードのご利用が難しい方は、お電話でどうぞ

082-424-6834

受付時間 平日10:00~16:00

主催 一般財団法人夢ノ社/ショパン音楽大学室内管弦楽団

共催 広島大学大学院人間社会科学研究科

協賛 ヤマハ株式会社

後援 外務省、文部科学省、ポーランド共和国科学高等教育省、駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター、在日ポーランド商会議所
東広島市、東広島市教育委員会、東広島商工会議所、NHK広島放送局、中国新聞社

ショパン音楽大学室内管弦楽団 東広島公演

音楽が生まれる瞬間を、間近で

音楽が生まれる過程にふれ、ポーランドと日本のつながりを知り、
最後は本公演へ。
国境をこえた音楽の出会いを楽しめる一日です。

9/27
(日)
東広島公演
スケジュール

9:00-12:00 公開リハーサル

会場：サタケメモリアルホール

コンサートで耳にするのは、完成した演奏です。
その演奏は、どのようにつくられていくのでしょうか。
公開リハーサルでは、指揮者と演奏家たちが音を確認め、息を合わせながら
一つの演奏をつくり上げていく様子をご覧いただけます。
午後の本公演で、どのような響きになるのかも、あわせてお楽しみください。

9:30-12:30 ピアノ公開レッスン

会場：広島大学 教育学部音楽棟

同じ奏者が同じ曲を演奏しても、たった一つの助言で音楽は大きく変わります。
ピアノ公開レッスンでは、ショパン音楽大学教授による世界レベルの指導を通して、
演奏が変化していく瞬間を間近でご覧いただけます。(受講者：約3名)

13:00-14:30 講演会

会場：サタケメモリアルホール

音楽と文化を通して、ポーランドと日本のつながりを知る講演会です。

テーマ：「音楽教育と平和の未来」

登壇者・演題など、詳しくは公式サイトでご案内します。

15:30- 本公演

会場：サタケメモリアルホール

演目 ショパン ピアノ協奏曲 第1番／ベートーヴェン 交響曲 第3番《英雄》
オペラ《忘れられた少年—天正遣欧少年使節》

広島大学の教員・学生も、独唱・合唱と管弦打楽器の演奏で共演します。

※各プログラムの時間・会場は変更となる場合があります。最新情報は公式サイトでご確認ください。

すべて入場無料・事前予約制



Webお申込み
公演最新情報

chopin-japan2026.jp

・事前予約制(先着順) ・どなたでもお申し込みいただけます
・小学生以上入場可(未就学児は入場不可) ・お一人につき1予約1席

二次元コードのご利用が難しい方は、
お電話から申し込みください。

☎ 082-424-6834

受付時間 平日10:00～16:00

特別共演 東京オペラ協会

東京オペラ協会は、人間賛歌と自然賛歌をテーマとしたオペラ活動を続け、今年設立50年を迎えました。
活動の柱は二つあります。一つは国際平和を願いながら世界各国とオペラで国際交流すること。もう一つはユニ
バーサルデザインの考え方で、誰もが参加できてその可能性を拓き育てる場を提供し続けることです。
これまで、オペラ「忘れられた少年—天正遣欧少年使節」(柴田南雄作曲、石多エドワード台本)は国内外で170
回以上公演し、各国の音楽家や舞踊家と共演してきました。

他にも国際交流オペラとして、日比合作歌劇「高山右近—剣か愛か」、日中合作歌劇「蓬萊の国—始皇帝と徐
福」、日西合作オペラ「ザビエル」を制作し、上演してきました。

さらに、今回ハイライト演奏されるオペラ「忘れられた少年」は、日本から初めてのオペラ映画となり、世界中の方
にご覧いただけるように準備が進められています。



2019年
クラクフ国立歌劇場公演
(日本・ポーランド国交樹立100周年)



1993年
教皇ヨハネ・パウロ2世と石多エドワード

プロフィール

楽団

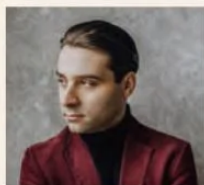
ショパン音楽大学室内管弦楽団

Chopin University Chamber Orchestra

母体のショパン音楽大学(ワルシャワ)は
ポーランド最古の音楽大学です。

ショパンも前身校で学びました(1826-29)。

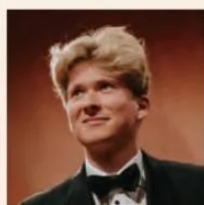
2017年創設。多段階のオーディションで選ばれた学生により構成される。
中国ツアーでは上海など21公演を成功させ、録音はポーランドの音楽賞「フリデ
リク賞」に2度ノミネート。ポーランド・イスラエル・ドイツ三国の大統領が列席した
ワルシャワ・ゲットー蜂起80周年記念演奏会にもメンバーが参加。



指揮

ラファウ・ヤニアク Rafał Janiak

1986年生まれ。作曲家・指揮者。ショパン音楽大学教授・副学長。
ワルシャワ・フィルをはじめポーランドの主要オーケストラや歌劇場で
指揮を重ね、現在はウッチ大劇場の芸術監督を務める。
2023年、ポーランド文化功労勲章グロリア・アルティス受章。



ピアノ

クシシュトフ・ヴィエルチニスキ Krzysztof Wierciński

2003年ワルシャワ生まれ。ショパン音楽大学でヨアンナ・ワヴリノヴィ
ッチ＝ユスト教授に師事。2025年、第53回フリデリク・ショパン全国
ピアノコンクール第2位。これにより第19回ショパン国際ピアノコンク
ールに予備予選免除で出場し、ワルシャワ・フィルハーモニーの舞台
で第1ステージに出演した。
ヨーロッパ、北米、アジアで演奏活動を重ねる俊英。

※プログラム・出演者は都合により変更になる場合があります。予めご了承ください。

※荒天・災害等により公演を中止・変更する場合があります。その際は公式サイトでお知らせします。

お問い合わせ 一般財団法人 夢ノ社 名古屋市中区丸の内2-12-15 勝川ビル2F TEL 052-253-6669 support@yumenosya.or.jp

写真クレジット | オーケストラ演奏写真 © Mateusz Zaboklicki / UMFC 指揮者肖像 © Anita Wasik-Płocinśka ピアニスト肖像 © Krzysztof Szlezak 東京オペラ協会写真 提供 東京オペラ協会



第 194 回 学長定例記者会見 お知らせ事項 3

令和 8 年 8 月 31 日

今後予定されている主な行事について（お知らせ）

9 月以降開催予定の主な行事をお知らせします。詳細は後日プレスリリースにてご案内いたします。

■ 秋季学位記授与式

日時：9 月 18 日（金） 13 時～

場所：サタケメモリアルホール〔東広島キャンパス〕

■ 秋季入学式

日時：10 月 1 日（木） 11 時～

場所：サタケメモリアルホール〔東広島キャンパス〕

■ 広島大学ワクチン・治験薬製造拠点棟竣工式

日時：10 月 2 日（金）

場所：霞キャンパス内

【お問い合わせ先】

広報グループ

TEL: 082-424-4518

Mail: koho@office.hiroshima-u.ac.jp